

日本唯一の シンバルメーカーが 世界展開を狙う!

3

機械部品や楽器のパーツなどを製作していた株式会社小出製作所が、ある社員のひと言をきっかけにプロユースのシンバルづくりに取り組んで約10年。『小出シンバル』は国内唯一のシンバルメーカーとして、多くのミュージシャンや音楽関係者に愛されている。「シンバル製造に取り組み始めた当初は、作る以前に素材の青銅が手に入らなくて苦労しました」と語るのは、代表取締役の小出俊雄氏。最初は海外から輸入していた素材も、現在は国内で確保できるようになり、技術面と素材面の両方から音について深く追究している。「産学連携で材質や音質の研究に取り組もうと準備しています。シンバルは時とともに常に音質が変化する楽器ですから。今後は、我々にしか作れないシンバルを生み出して世界を狙いたい」と小出氏。シンバルに染め抜かれた『小出』という漢字のロゴも、世界展開を視野に入れて選んだという。このロゴが世界中の音楽シーンを席巻する日は近い。

株式会社小出製作所

大阪市平野区加美正覚寺1-22-32
TEL_06-6791-4686
http://koidecymbal.com/



ヘアアクセサリ販売を通じて、お客様と共に社会貢献を目指す

4

ECショップとしては、日本最大級のヘアアクセサリ専門店『Littlemoon』。1万点以上の品揃えと、お客様の声をとことん反映して生まれた、簡単に本格的なヘアアレンジができるオリジナルヘアアクセサリが人気の秘密。「きっかけは子供がいる女性でも、オシャレしてキレイになる喜びや楽しみを気軽に楽しんでもらえるものを扱いたくて、ヘアアクセサリ事業を始めました」と語るのは、自らも二児の母である創業者の文美月氏(ブンミツキ)。商品の使い方動画や無料ヘアアレンジ講習会、電話相談室の設置といったフォローも、そうした想いから生まれた。また、社会貢献活動として、ラオスなどの発展途上国の少女たちにサンプルやお客様から預かったユーズドヘアアクセを届ける『Little ECO プロジェクト』を立ち上げ、積極的に取り組んでいる。「お客様とコミュニケーションしながら、持続的に社会貢献活動に取り組んでいきたいですね」と文氏。



リトルムーンインターナショナル株式会社
大阪市西区北堀江1-1-21 四つ橋センタービル9階
TEL_06-4708-7800
http://www.littlemoon.co.jp/
http://shopping.littlemoon.co.jp/ (ネットショップ)

5



村上紙器工業所

大阪市西成区天神ノ森1-19-8
TEL_06-6653-1225
http://www.hakoya.biz/

今、ものづくりから“ことづくり”へ

ボール紙の箱に、様々な紙を手作業で貼って仕上げる。この貼箱に、並々ならぬ愛情を注ぐ男が、村上紙器の代表・村上誠氏だ。彼は数年前から、素材の風合いを生かした新しい貼箱を生み出している。そのきっかけを村上氏は「品質だけで競っても、結局は価格競争になってしまう。この現状を変えたかったんです。」と語る。例えば、ある商品を入れる箱を制作したときには、シックな質感の紙にコンマミリ単位で寸法を調整し、開けたときの空気の抜け感まで演出。このように五感で感じるパッケージは、海外からも問い合わせがあるという。「貼箱は寸法や紙質、すべてオーダーメイドなので、時間と手間がかかる。無駄なことだ、と同業者から言われたりしますが、これからの製造業に必ず求められることなんです。」と、村上氏。たかが箱、されど箱——。見た目の印象だけでなく、手触りや開けたときの驚き、喜び。そんな感動を求めて、村上氏の“ことづくり”は続く。

6

食品サンプルのノウハウ生かし医療分野へ



販売元:株式会社ジャスト・メディカルコーポレーション

株式会社いわさき

大阪市東住吉区西今川1-9-19
TEL_06-6714-2526
http://www.iwasaki-ts.co.jp/

飲食店の入り口に置かれた本物そっくりの料理見本にそそられメニューを決める人も多いことだろう。この食品サンプル製造でトップシェアを走るのが、いわさきだ。サンプル作りは実際の料理を観察するところから始まる。細部まで表現した現物見本をもとにシリコン製の型を作り、そこに流しこんでできた樹脂を焼成して最後に着色する。「ポイントは盛り付け。いかにデフォルメしておいしそうに見せるか腕が問われる」と人事総務課課長の鳥路茂氏。この技術を生かし、近年力を注ぐのが医療・看護分野のトレーニングツールだ。「カテーテルトレーニングシミュレーター」は、手術器具であるカテーテルの操作練習用に血管を模した教育用モデル。「シリコン樹脂製模擬血管の内側に挿入できる着脱式の病変部もつくり、人体での操作と同様の感触を追求した」。見せる用途から触って使うものまで、樹脂材料を用いて本物を再現する技を生かし、新しい可能性を切り開いている。

たった一人のためのジーンズだから、カウンセリングで細部に魂を宿す!

50種類以上ある国産デニム生地を自在に操り、オーダージーンズを作るデニムマッドネス。代表の石野直氏はたった一人のために作られるオーダーメイドにパワーを感じ、好きなデニムを扱うオーダージーンズの道に進んだ。一番の特徴は製作前に行われる“マッドネスカウンセリング”だ。「約1時間程度お話しをうかがいます。それも作りたいジーンズの形やイメージより、お客様の好物や趣味、興味関心などが中心ですね。そんな話の方が製作時のヒントになるんですよ」と語る。製作過程では常にそのお客様のことを頭に描きながら製作するという石野氏。自身の美意識を高く保ち、今持てる最高の技術を発揮することが自分を成長させる近道だ、とストイックな想いを持ちながらも、カウンセリングでは柔らかな物腰で場をゆったりとした雰囲気包み込む。「さまざまな場所や国で、その人々にオーダージーンズを作ってみよう。目標は大好きなロンドン」と、目指すフィールドは世界!



デニムマッドネス

大阪市西区土佐堀1-4-2 西田ビル2F
TEL_06-6940-6677
http://www.denimmadness.com/

8

大阪の間伐材から 誕生した『木糸』で、 林業と繊維産業のコラボを狙う!

7

スギやヒノキなどの間伐材から生まれた新素材『木糸(もくいと)』。開発したのは、株式会社和紙の布の代表取締役・阿部正登氏だ。社名の通り、和紙の布を作る技術を開発した経験を持つ阿部氏が「和紙を布にできたのだから、木を紙にする工程ができれば、木製の糸を作ることでもできるはず」と考えて開発をスタートし、わずか1年たらずで木糸を完成させた。当時を振り返りながら「木糸が誕生したのは、仲間の助けがあったからこそ」と語る。なぜなら、開発過程で発生した問題のクリアには『はんなりと和紙の布工房協議会』メンバーの協力が不可欠だったという。将来的には、木糸を通じて大阪の林業と繊維産業のコラボを実現し、さらに林業や繊維業の活性化と地産地消を同時に達成できる仕組みを構築したいと目論む。「次のステップは、木糸を誰もが扱える糸に進化させること。この木糸で織った布や和紙の布で、1,000年続くスタンダードな製品づくりを目指したい」と阿部氏。

株式会社和紙の布

阪南市下出305-1
TEL_072-473-3102
http://www.washinonuno.com/

